

本誌独占! 入ってから伸びる私立中高ランキング

特別
定価 620円

Weekly
Toyo Keizai

週刊 東洋経済

2007
6/30
増大号

www.toyokeizai.net

学校激変

本当に強い中高二貫校

お父さん知ってる?

塾ビジネスの仁義なき戦い!

第2特集

大丸「奥田改革」
10年目の飛躍

れる。学校で月1度程度配られたりする「学統通信」の熱版だ。教務内容を中心に進度や宿題内容、自宅学習の際注意すべき点、テスト結果の報告などが詰まった1枚だ。

たとえばある日の小5「社会 宿題レポート」なら「宿題内容」欄に教材名と該当箇所、勉強方法としてはプリントに書き込めばいいのかが、それとも解答用紙に書き込めばいいのかが記されている。「チェックポイント」欄には「穴埋めプリントで間違えたところの正解を赤で書いたか」「漢字で書くべき所は漢字で書いたか」など計5項目がチェックボックスつきで列挙されている。

生徒たち自身の日々の学習の振り返りに使うだけでなく、宿題レポートに簡単に目を通してあげれば、わが子が今何をどんな課題を持って取り組んでいるかが、親にも一目瞭然だ。「授業と課題（宿題・復習）」とが学習の両輪。生徒自身が課題をこなしていかないと、本人の考える時間を奪ってしまう。わからないことが出てくると「ママに聞けばいいや」となってしまったらダメ。われわれは「親御さんはお子さんに勉強を教えないでください」とはつきりお伝えしています（齋藤氏）。

そのため川ヨビでは、時間がかかっても小4時点から粘り強く「正しい課題のやり方・効率よく学力が伸びるやり方」を指導する。

中学受験対策だけでなく、その先の一生涯に立つ学習法を身につけてもらおう。それが川ヨビのモットー。「手づくりの英才教育」なのだ。

塾は敵ではない まずは勉強する楽しさ

地域的に見ると、ここ5〜6年で小学生の2人に1人は中学受験をするという文京区の護国寺界隈。筑波やお茶の水など国立大学附属校も集中することから、子どもがいる家庭は幼いうちから熱心に教育を受けさせるケースが多い。

そんな地域で、塾の同業者からも「全然休む間もなく教えているんじゃないの？」と言われているほど熱心に教えてくれる塾がある。それが現代教育学院だ。

「入学試験というのは採用試験。性格や人格といった「格」が高まれば合格する。その学校の格に通うようにならないければダメ。そのためには勉強はもちろん、できない自分を受け入れる、できない自分に気づくことが大切だ」（齋藤代表）。

格を高めるためには、幼さを捨て大人にならなければならぬ。大人になるということは自分を客観視できる、他者の論理にも思いが至るということ。そこから、問題を読み解

く力もつく、というわけだ。

群馬など遠方から通う生徒や、大手塾で伸び悩んで駆け込んできた生徒など、同塾にはさまざまな子どもが集うが、第一志望校合格率90%を達成しているという（開校以来11年間平均）。都内男女御三家や早慶付属、浪華、国立大附属など難関中への合格者を輩出する。

子どもの受験に熱心な親には、自身の成功体験をベースに子育てをしようと、子どもが

子どもの自発的な 行動、考えに応える

できないことをむやみに叱る場合が少なくない。家で叱られ続けている子どもは萎縮し、勉強にも楽しみを見いださなくなる。自分から勉強をするようになるためには、まずは塾が楽しいところだと感じてもらうことが第一歩だという。

「小3〜4年段階で塾が楽しい場所であると理解してもらい、先生たちは敵ではないということ伝えていく。子どもにとっては親の視線はうざったいもの。「小3、小4は乳離れするときです」と親御さんたちにもお伝えして、塾として子どもたちを教育していくことに理解をしていただく」（齋藤代表）。

そのためには、子どもたちが家では勉強がはかどらないから塾に来たいと言ってきたら「何時に来たいの？」と尋ねて、その時間には教室が使えるように準備する。子どもたちが自発的に考え、行動するようにすることが大切なのだ。

「教壇に立っていると私たち自身が子どもたちに試されているのだと感じます。私たちの投げかけるボールが日々問われている。だから私たちは心して子どもたちと向き合っていくかなければいけない」と、齋藤代表は表情を引き締めた。

